皆様の参加をお待ちしています!!

「インターンシップ」@茨城労働局に参加して

参加者の声より
（抜粋版）

国・労働局の仕事について

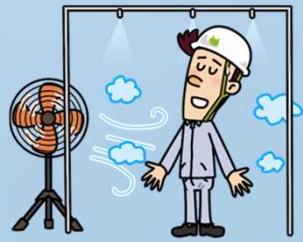
- 厚生労働省の地方機関として、「働く人」、「働く環境」のためにスケールの大きな仕事をしつつも、地域に密着した活動をしているということを知りました。
- これまでイメージは労働問題を扱うため、職場の雰囲気が堅く重いものと考えていましたが、どの部署でも職員どうしのコミュニケーションがきちんと取られていて、明るく働きやすい雰囲気の職場だと感じました。
- 実習前は法律違反の企業を指導することしか知りませんでしたが、就職の手助け、労働者の相談など接客に関する仕事もあると知り、多様な仕事をしていることを知りました。

総務部（労働保険徴収室）での実習について

- 労働保険に加入する義務、それによって労働者の生命と安全が守られるということに関心を持ちました。保険に加入していない、または滞納している企業には指導するということについて、行政の信頼性が求められるように感じました。
- 労働保険関係の届出の審査・入力などで同じ業種でも何をしているか、何を作っているかによって細かく分類されているところに興味を持ちました。
- 労災保険や雇用保険などの具体的な金額が記載された会社側からの書類確認の業務を体験して、非常に責任のある仕事だと感じました。少しの誤差でも公正公平が崩れる大きな問題になるので、失敗は許されない責任の重い仕事であることに関心を持ちました。

労働基準部での実習について

- 地方最低賃金審議会の傍聴を体験しましたが、労使双方の意見だけでなく、消費者物価指数や地理的要素も考慮して最低賃金を決定していることが印象的でした。
- 工場の見学で従業員の方々が仕事に取り組んでいる様子を目にし、こうした人々の安全を守る業務の責任の重さを感じました。
- ケガや健康障害が起こる前に前もって防止するという点に興味を持ちました。労働局は固いイメージがありましたが、実際に足を運んで現場を見るということを知りイメージが変わりました。このような仕事があるからこそ、私たちは安全に仕事をすることができるのだと思いました。



雇用環境・均等室での実習について

- 働き方改革など社会的にも注目度の高い業務に携わっていることに関心を持ちました。
  女性活躍推進法に基づく「えるぼし認定」や、若者の使い捨てをする企業などよく耳にする問題についても携わっていることに関心を持ちました。
- 働き方改革について、労働者だけでなく企業にも働きかけを行うなど、職員が広い視野を持ち最善の行動で業務を行っていると感じました。
- 企業への法の周知や広報に力を入れており、幅広い問題を扱っていましたが、広報では茨城労働局HPの運営、フォトレポートの作成のほかSNS投稿など、人々の生活に寄り添った形で情報を発信しているのが良いと思いました。

職業安定部での実習について

- ハローワークでは、新卒や社会人との職業相談、65歳以上の方に対して就職に関するセミナー等を行っており、自分自身も実際に相談して就活への助言をいただいたことが印象に残り、興味を持ちました。
- に訪れた際、相手のことを思いやるホスピタリティにとても感動し、関心を持ちました。単に仕事を紹介するのではなく、その人自身がより良い方向へ進めるようヒントや助言をする仕事だと感じました。
- ハローワークは求人を探すだけの場所というイメージでしたが、適職を探したり仕事内容や面接の相談をしたり助成金を扱うなど、様々な面でのサポートを行っているということを知りました。
- 実際に職業相談を体験してみて、親身になって対応してくださった職員さんの言葉に、今まで自分が感じていた不安が和らいだので、職業相談のようなかたちで人の助けになる業務に改めて興味が増しました。

JOB

実習ではどのような成果がありましたか？

- 様々な業務を間近で体験し、より自分の将来像を形成することができました。さらに、労働に関する知見を深めることで、現代の社会問題はもちろん、未来の社会問題にも目を向けられたと思います。
- 定例記者会見で司会を務めさせていただいたことや最低賃金審議会を見学したことは、独特な緊張感や雰囲気を味わえました。
- 雇用環境・均等室での個別労働紛争解決援助制度や監督署での労災保険に関する業務など、今まで知らなかった業務について興味を持つきっかけとなり、参加して良かったです。
- 職員の方々が労働行政にどのような姿勢で向き合っているのかといったことも学ぶことができました。将来やりたいことについて悩んでいる部分がありましたが、自分がどのように社会に関わっていきたいかという観点から職業をみることができるようになりました。